

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600479
法人名	有限会社みらい館
事業所名	グループホームくない
所在地	愛媛県西条市樋之口380-1
自己評価作成日	平成24年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にしており、利用者に自宅で過ごすのと同じような安心感を感じてもらうため職員はユニフォームではなく家に居るような服装で勤務している。
置いてある家具や調度品も温かみや懐かしさを感じさせるものをと心がけている。
職員も顔を見ただけで安心感が得られるよう常に笑顔の対応に努めている。
ミーティングや勉強会、日々の対話を通じて個々職員の介護に対する意識・資質を高め、利用者とその家族に更なる安心、満足を得られるようサービスの向上を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅地に8年前に開設された当事業所は、開設時から勤務している職員も多く、近隣住民と馴染みの関係を築きながら利用者の暮らしを支援している。事業所内は季節感あふれる飾りや温もりある家具などが置かれ、心和む空間となっている。バランスのとれた美味しい食事は、利用者の生活をより豊かで楽しいものとしている。昨年、職員が企画した「ミニ運動会」では利用者と家族が共に楽しい時を過ごすことができた。利用者とその家族が安心して過ごせるよう「心こそ大切」「一人の人を大切に」をモットーに代表者をはじめ、管理者、職員が一つとなって温かいケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム ぐれない
(ユニット名)	お福
記入者(管理者)	
氏名	井上 静
評価完了日	24 年 1 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営理念を見やすい場所に掲げ、職員全員がそれを理解し心に留めつつ職務にあたっている。また、管理者は、その理解を深められるよう日頃から職員との対話を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 開設時に掲げた理念を見やすい所に掲示し、管理者や職員は共有している。また「心こそ大切」「一人の人を大切に」を事業所のモットーとしており、全職員が地域密着型サービスの意義を理解し心を一つにケアの実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事や自治会の活動への協力、また挨拶など日々の小さなことから地域とのつながりを強め、地域の方々からもその一員として受け入れられている。</p> <p>(外部評価) 開設から8年経過し近所の方が認知症に関する相談に来るなど、地域における知名度も高まっている。秋祭りにはだんじりを見物したり、地元中学生の職場体験を受け入れている。保育園児の訪問も恒例となっており、子供たちとの交流も進んでいる。天気の良い日は散歩や買い物など積極的に地域へ出かけ交流するようにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所の方が認知症に関する相談に来られるなど、経験を活かした協力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を催し、活発で有益な意見交換が交わされ、更なるサービスの向上に活かされている。	
			(外部評価) 利用者や家族、地域住民、市担当者等の参加を得て2か月ごとに開催している。事業所の状況報告等を行い、参加者から意見をもらいサービス向上につなげている。震災後は防災に関する意見が多く、地域全体の問題として検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者の方とは堅実な信頼関係が築かれており、必要な情報の共有が出来ている。	
			(外部評価) 地域包括支援センター職員に運営推進会議へ参加してもらい、情報提供や助言をもらっている。介護相談員は定期訪問以外に運営推進会議にも参加し、意見交換を行っている。市担当者との協力関係を築きながら適切なサービスの提供に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束禁止に関する職員の理解は十分であり、細かい目配りや機転をかかせた声掛けによって身体拘束を必要としないケアが実現できている。	
			(外部評価) 事業所として身体拘束を行わない方針であり、職員も正しく理解し実践している。玄関は施錠しておらず、外出傾向の利用者は見守りで対応している。今まで事故は発生していない。安全面に配慮しつつ自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員の間で食事会や飲み会の機会を持ち、ストレスをためないようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者、職員とも理解を深め、支援に役立てている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には口頭説明、文書により、納得、理解した上での契約を遂行している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 積極的に行政に意見を発する家族の方も多くおられ、その声がサービスの向上に役立てられている。 (外部評価) 家族には毎月の利用料を直接支払いに来てもらうようお願いしている。その際利用者の状況を伝え意見や要望を聴き、職員間で話し合いケアに反映させている。昨年「ミニ運動会」を行い家族と交流したり、「くないだより」を年4回発行し利用者の近況報告を行うなど、家族が意見を出しやすいよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティングは随時行われており、また休憩時間等のちょっとした会話の中から出た職員からの提案を取り入れるなど、管理者が職員の意見を聞く機会を持ち、それを大切にしている。</p> <p>(外部評価) 開設時から在職している職員が多く、意見や提案を出しやすい関係ができている。勤務の都合で全職員が集まることは難しいが、利用者に関する情報の共有を図りケアの提供に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) ホーム長は職員の状況をよく把握し、十分な処遇によりすべての職員がやりがいを持って働く事が出来る環境が整えられている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 資格取得の励行・支援、また講習への参加を勧めることで個々の職員の意識・能力向上を図っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他事業者の紹介でショートステイの入居者を受け入れたり、意見交換の機会を設けたりと、良好な協力関係が出来ている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所までにじっくり話をして本人の希望や意向を理解し、実際にホームを見学してもらったり必要であれば体験入所してもらったりして、安心してサービスを開始できるような対応をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始にあたって面談の機会を多く持ち、納得したうえで安心してサービスを受けられるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) よく話し合いをすることで利用者とその家族の現状や希望に応じ、関係機関の協力も得て必要なサービスが受けられるよう対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者に対し敬意をはらいつつ、家族のように気楽で親密な関係が育めるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入所後も全面的に施設任せにするのではなく、家族の協力こそが大切だということを理解していただき、ともに利用者の生活を支えていく体制ができている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人の訪問を積極的に受け入れたり、行きたい場所に連れて行ったりと、利用者の馴染みの関係を大切にしている。 (外部評価) 盆と正月には自宅に帰れるよう家族に協力をお願いしている。利用者の希望で兄弟の家に行ったり、馴染みの店に買物に行くなど支援している。家族と一緒に馴染みの美容室へ行っている利用者もいる。定期的に訪問美容を利用するなど新たな馴染みの関係も生まれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は利用者同士の関係や相性を把握し、利用者間の良好な関係が保てるようさりげない働きかけや声掛けを心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された利用者の方もその後の報告や相談があったり、訪問される方もいたり、協力関係を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者がどうありたいかを常に考え、本人・家族の意向を対話や面談を通じて理解できるよう努めている。 (外部評価) 家族から入居前の状況を詳細に聴き職員間で話し合いながら、利用者本位のサービス提供に努めている。重度化が進み思いを把握することが困難な事例もあるが、家族や主治医と連携をとりながら専門的な認知症ケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の意思を第一にし、家族の話なども参考にしてそれまでの暮らしぶりが継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 管理者・職員は個々の利用者の毎日の小さな変化にも気を配り、現況に柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員とのミーティング、家族や医療等関係機関との意見交換を基にした介護計画が作成されている。	
			(外部評価) 計画作成者がアセスメントを行い利用者と家族の希望を取り入れた計画を作成している。計画については職員間で話し合い3か月ごとに評価し、必要に応じて見直しを行っている。利用者の現状に即した計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 全職員が交代で、日中・夜間を通しての生活を各利用者ごとにケア日誌に記録している。そこから見られる変化に応じて介護計画が見直されることもある。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 日々の観察や対話から感じ取れる利用者の状態変化や新しいニーズに対して、家族とも相談のうえでそれに応じた支援を考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の保育園の園児たちの慰問、実習生の受け入れやボランティアの協力、地域の方との交流など、様々な地域資源を活用することで、利用者の楽しみを広げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者が以前から受診していた医療機関・病院をかか りつけ医として薦めている。それぞれのかかりつけ医 との協力関係も出来ている。</p> <p>(外部評価) 半数以上の利用者は協力医をかかりつけ医としてお り、受診には家族が同行している。入居前のかかりつ け医に通院している利用者もおり、事業所として連携 し適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員が勤務している時には相談し、緊急時には看 護職員が即対応できる連絡体制が出来ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 各医療機関とは信頼関係が出来ており、入院中の状態 報告、適切な退院時期の相談がスムーズに行ってい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 終末期についての考え方は日頃から各利用者やその家 族と綿密な話し合いを重ね、納得のいく形を取れる支 援を提案している。また、ホームでの看取りの実地・ 成功の例もある。</p> <p>(外部評価) 家族の協力が得られ、協力医の診断で看取りの許可が 得られた場合、事業所での看取りを行っている。代表 者、管理者、全職員が協力し利用者と家族が希望する 最期が安心して迎えられるよう支援している。代表者 は夜間でも連絡があれば駆けつけるなど柔軟に対応し ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応は全職員が周知しており、応急手当の講習を受け定期的な訓練を積み、適切な対応が出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 共用空間に非常ベル、消火器、防災ずきんを設置・常備し、年に二回の防災訓練を消防署の協力の下実施している。避難することが困難な利用者を迅速に安全な場所に誘導するための方法も訓練している。地域からも災害時の協力が得られるよう連携体制を整えている。 (外部評価) 年2回消防署の指導のもと訓練を実施している。地域の防災意識が高く、運営推進会議で地域住民から協力の申し出や訓練参加希望の声があがっている。	海から近いこともあり、地域と連携し実践的な訓練を行うなど、さまざまな事態を想定した防災対策の取り組みが行われることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は利用者を常に尊重し、敬意を持って接している。適切な言葉選びや対応が自然にでき、不要なプライバシー侵害をしていない。 (外部評価) 名前の呼び方については利用者と家族の希望に合わせて対応している。長く勤務している職員が多く、共に暮らす家族として利用者を尊重した自然な声かけができています。特に入浴や排せつの介助時は羞恥心への配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者がしたい事、食べたい物などの意向を、日々の会話の中から引き出し、希望を実現できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日のスケジュールなどは無く、利用者が自分の意思やペースで行動できるよう、ゆったりとした自由な生活のリズムを維持している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 買い物に出掛け好みの服を選んで買ったり、自分で選ぶことが困難な方には若い頃の趣向をふまえて家族の方に選んでもらったりと、それぞれが個性にあった服装をしている。美容院に通う事が困難な利用者のため、定期的に美容師の方にホームに来てもらい、好みの髪型に整えてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各利用者の好みを取り入れた献立を職員みんなで考えている。食事を生活の楽しみの一つとして重視し、見た目や食べやすさにも気を配っている。可能な利用者には調理、後片付けも一緒にしてもらい、やりがいを感じてもらっている。 (外部評価) 利用者の好みに配慮された献立は見た目も美しく、美味しく食べやすく調理されている。ほとんどの利用者は介助なしで完食している。年末年始や節分、ひな祭りなど季節の行事に合わせた食事は利用者にとって何よりの楽しみであり、事業所での暮らしをより豊かなものにしていく。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食欲や体調、持病の関係などからそれぞれの利用者にとって適切な食事量を調整している。水分摂取が十分であるよう、全職員が気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 必要な人には介助をし、職員も一緒になって毎食後口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握し、さりげない声掛けや誘導により、気持ちよくトイレでの排泄ができるよう支援している。適切な誘導をすることで失禁や放尿がほとんどなくなった利用者もいる。	
			(外部評価) 紙パンツとパッドを使用している利用者もいるが、一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレでの排泄を支援している。夜間は居室でポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘になりにくい、野菜を多く使った献立を考えている。「牛乳を飲むとお通じが良くなる」といったような個々の利用者の希望があればそれに応じている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) おおまかな入浴予定はあるものの、それに捉われることはなく、それぞれの利用者の希望に応じた入浴支援をしている。入浴前は嫌がる利用者もいるが、職員の工夫や声掛けで入浴後は「とても気持ち良かった!」と満足されている。	
			(外部評価) 大きめの浴槽やシャワー浴の機材が整備され安全に入浴支援が行われている。脱衣場の横にはトイレと汚物用の流しがあり、利用者の羞恥心に配慮したケアを行えるよう環境整備もされている。入浴の苦手な利用者も声かけなどを工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昔から使っていた馴染みのある寝具やパジャマを使ってもらうことで、違和感無く休むことが出来ている。就寝時間の決まりは無く、利用者それぞれのリズムに合わせている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬時には複数の職員が確認のうえ、見守り・介助のもと服用してもらっている。各利用者のカルテに処方箋をはさんでおり、服薬時の注意事項や副作用などの情報を職員すべてが理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 歌、踊り、手芸、料理などそれぞれの特技を披露してもらう機会を作り、他の利用者や職員とそれを楽しむことでいきいきとした生活を送れるよう支援している。元気な利用者が職員と協力して身体の不自由な利用者の援助を自発的に行う事でやりがいを見出している場面もある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員が同行しての買い物やドライブ、カラオケなど希望に沿った外出の支援を行っている。可能な家族には外食や地域の行事に連れ出したりと、協力してもらっている。 (外部評価) 利用者や家族の希望や季節に合わせた外出を計画、実施している。弁当をもって花見に行ったり、カラオケや買物、外食などを楽しんでいる。家族と一緒に写真館で記念写真を撮る利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は、入所者本人や家族とよく話し合った上で、利用者本人の認知能力の程度に応じて、管理方法の取り決めをしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 時間帯や本人の状態などを考慮したうえで、制限なくできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は適切な明るさ、温度が常に保たれており、季節の花を活けたり飾り付けをしたりすることでホーム内に居ながらも季節感が感じられるよう配慮している。	
			(外部評価) 季節感が感じられる飾り付けがされ、心和む空間づくりがされている。玄関にはスリッパの滅菌庫が設置され、来訪者への配慮がされている。小上がりの和室は夜間寝室としても利用されている。食堂兼居間もソファなどが置かれゆっくりと過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間には椅子の席、ソファー、足を伸ばせる畳コーナーが設置してあり、各利用者がその時の気分に応じて好きなように過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者それぞれが使い慣れた家具や持ち物を入れる事で違和感無く生活できている。仏壇を置いたり思い出の写真、記念品などをを自室に飾ることで安心感を深めている利用者も多い。	
			(外部評価) 各居室にはベッドと整理タンスが整備されており、家族に協力を得ながら衣替えを行なっている。思い出の写真や家族の位牌を置いている利用者もおおり、一人ひとりが落ち着けるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや非常出口、居室の表示など分かりやすくして、混乱を招くことがないように配慮している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600479
法人名	有限会社みらい館
事業所名	グループホームくない
所在地	愛媛県西条市樋之口380-1
自己評価作成日	平成24年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にしており、利用者に自宅で過ごすのと同じような安心感を感じてもらうため職員はユニフォームではなく家に居るような服装で勤務している。
置いてある家具や調度品も温かみや懐かしさを感じさせるものをと心がけている。
職員も顔を見ただけで安心感が得られるよう常に笑顔の対応に努めている。
ミーティングや勉強会、日々の対話を通じて個々職員の介護に対する意識・資質を高め、利用者とその家族に更なる安心、満足を得られるようサービスの向上を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅地に8年前に開設された当事業所は、開設時から勤務している職員も多く、近隣住民と馴染みの関係を築きながら利用者の暮らしを支援している。事業所内は季節感あふれる飾りや温もりある家具などが置かれ、心和む空間となっている。バランスのとれた美味しい食事は、利用者の生活をより豊かで楽しいものとしている。昨年、職員が企画した「ミニ運動会」では利用者と家族が共に楽しい時を過ごすことができた。利用者とその家族が安心して過ごせるよう「心こそ大切」「一人の人を大切に」をモットーに代表者をはじめ、管理者、職員が一つとなって温かいケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ぐれない

(ユニット名) お幸

記入者(管理者)
氏名 信宮 綾

評価完了日 24 年 1月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営理念を見やすい場所に掲げ、職員全員がそれを理解し心に留めつつ職務にあたっている。また、管理者は、その理解を深められるよう日頃から職員との対話を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 開設時に掲げた理念を見やすい所に掲示し、管理者や職員は共有している。また「心こそ大切」「一人の人を大切に」を事業所のモットーとしており、全職員が地域密着型サービスの意義を理解し心を一つにケアの実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事や自治会の活動への協力、また挨拶など日々の小さなことから地域とのつながりを強め、地域の方々からもその一員として受け入れられている。</p> <p>(外部評価) 開設から8年経過し近所の方が認知症に関する相談に来るなど、地域における知名度も高まっている。秋祭りにはだんじりを見物したり、地元中学生の職場体験を受け入れている。保育園児の訪問も恒例となっており、子供たちとの交流も進んでいる。天気の良い日は散歩や買い物など積極的に地域へ出かけ交流するようにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所の方が認知症に関する相談に来られるなど、経験を活かした協力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議を催し、活発で有益な意見交換が交わされ、更なるサービスの向上に活かされている。	
			(外部評価) 利用者や家族、地域住民、市担当者等の参加を得て2か月ごとに開催している。事業所の状況報告等を行い、参加者から意見をもらいサービス向上につなげている。震災後は防災に関する意見が多く、地域全体の問題として検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者の方とは堅実な信頼関係が築かれており、必要な情報の共有が出来ている。	
			(外部評価) 地域包括支援センター職員に運営推進会議へ参加してもらい、情報提供や助言をもらっている。介護相談員は定期訪問以外に運営推進会議にも参加し、意見交換を行っている。市担当者との協力関係を築きながら適切なサービスの提供に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束禁止に関する職員の理解は十分であり、細かい目配りや機転をかかせた声掛けによって身体拘束を必要としないケアが実現できている。	
			(外部評価) 事業所として身体拘束を行わない方針であり、職員も正しく理解し実践している。玄関は施錠しておらず、外出傾向の利用者は見守りで対応している。今まで事故は発生していない。安全面に配慮しつつ自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員の間で食事会や飲み会の機会を持ち、ストレスをためないようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者、職員とも理解を深め、支援に役立てている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には口頭説明、文書により、納得、理解した上での契約を遂行している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 積極的に行政に意見を発する家族の方も多くおられ、その声がサービスの向上に役立てられている。 (外部評価) 家族には毎月の利用料を直接支払いに来てもらうようお願いしている。その際利用者の状況を伝え意見や要望を聴き、職員間で話し合いケアに反映させている。昨年「ミニ運動会」を行い家族と交流したり、「くないだより」を年4回発行し利用者の近況報告を行うなど、家族が意見を出しやすいよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングは随時行われており、また休憩時間等のちょっとした会話の中から出た職員からの提案を取り入れるなど、管理者が職員の意見を聞く機会を持ち、それを大切にしている。 (外部評価) 開設時から在職している職員が多く、意見や提案を出しやすい関係ができている。勤務の都合で全職員が集まることは難しいが、利用者に関する情報の共有を図りケアの提供に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ホーム長は職員の状況をよく把握し、十分な処遇によりすべての職員がやりがいを持って働く事が出来る環境が整えられている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 資格取得の励行・支援、また講習への参加を勧めることで個々の職員の意識・能力向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業者の紹介でショートステイの入居者を受け入れたり、意見交換の機会を設けたりと、良好な協力関係が出来ている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所までにじっくり話をして本人の希望や意向を理解し、実際にホームを見学してもらったり必要であれば体験入所をしてもらったりして、安心してサービスを開始できるような対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始にあたって面談の機会を多く持ち、納得したうえで安心してサービスを受けられるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) よく話し合いをすることで利用者とその家族の現状や希望に応じ、関係機関の協力も得て必要なサービスが受けられるよう対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者に対し敬意をはらいつつ、家族のように気楽で親密な関係が育めるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入所後も全面的に施設任せにするのではなく、家族の協力こそが大切だということを理解していただき、ともに利用者の生活を支えていく体制ができています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人の訪問を積極的に受け入れたり、行きたい場所に連れて行ったりと、利用者の馴染みの関係を大切にしている。 (外部評価) 盆と正月には自宅に帰れるよう家族に協力をお願いしている。利用者の希望で兄弟の家に行ったり、馴染みの店に買物に行くなど支援している。家族と一緒に馴染みの美容室へ行っている利用者もいる。定期的に訪問美容を利用するなど新たな馴染みの関係も生まれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は利用者同士の関係や相性を把握し、利用者間の良好な関係が保てるようさりげない働きかけや声掛けを心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された利用者の方もその後の報告や相談があったり、訪問される方もいたり、協力関係を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者がどうありたいかを常に考え、本人・家族の意向を対話や面談を通じて理解できるよう努めている。 (外部評価) 家族から入居前の状況を詳細に聴き職員間で話し合いながら、利用者本位のサービス提供に努めている。重度化が進み思いを把握することが困難な事例もあるが、家族や主治医と連携をとりながら専門的な認知症ケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の意思を第一にし、家族の話なども参考にしてそれまでの暮らしぶりが継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 管理者・職員は個々の利用者の毎日の小さな変化にも気を配り、現況に柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員とのミーティング、家族や医療等関係機関との意見交換を基にした介護計画が作成されている。	
			(外部評価) 計画作成者がアセスメントを行い利用者と家族の希望を取り入れた計画を作成している。計画については職員間で話し合い3か月ごとに評価し、必要に応じて見直しを行っている。利用者の現状に即した計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 全職員が交代で、日中・夜間を通しての生活を各利用者ごとにケア日誌に記録している。そこから見られる変化に応じて介護計画が見直されることもある。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 日々の観察や対話から感じ取れる利用者の状態変化や新しいニーズに対して、家族とも相談のうえでそれに応じた支援を考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の保育園の園児たちの慰問、実習生の受け入れやボランティアの協力、地域の方との交流など、様々な地域資源を活用することで、利用者の楽しみを広げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者が以前から受診していた医療機関・病院をかか りつけ医として薦めている。それぞれのかかりつけ医 との協力関係も出来ている。</p> <p>(外部評価) 半数以上の利用者は協力医をかかりつけ医としてお り、受診には家族が同行している。入居前のかかりつ け医に通院している利用者もおり、事業所として連携 し適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員が勤務している時には相談し、緊急時には看 護職員が即対応できる連絡体制が出来ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 各医療機関とは信頼関係が出来ており、入院中の状態 報告、適切な退院時期の相談がスムーズに行ってい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 終末期についての考え方は日頃から各利用者やその家 族と綿密な話し合いを重ね、納得のいく形を取れる支 援を提案している。また、ホームでの看取りの実地・ 成功の例もある。</p> <p>(外部評価) 家族の協力が得られ、協力医の診断で看取りの許可が 得られた場合、事業所での看取りを行っている。代表 者、管理者、全職員が協力し利用者と家族が希望する 最期が安心して迎えらるよう支援している。代表者 は夜間でも連絡があれば駆けつけるなど柔軟に対応し ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応は全職員が周知しており、応急手当の講習を受け定期的な訓練を積み、適切な対応が出来るようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 共用空間に非常ベル、消火器、防災ずきんを設置・常備し、年に二回の防災訓練を消防署の協力の下実施している。避難することが困難な利用者を迅速に安全な場所に誘導するための方法も訓練している。地域からも災害時の協力が得られるよう連携体制を整えている。 (外部評価) 年2回消防署の指導のもと訓練を実施している。地域の防災意識が高く、運営推進会議で地域住民から協力の申し出や訓練参加希望の声があがっている。	海から近いこともあり、地域と連携し実践的な訓練を行うなど、さまざまな事態を想定した防災対策の取り組みが行われることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は利用者を常に尊重し、敬意を持って接している。適切な言葉選びや対応が自然にでき、不要なプライバシー侵害をしていない。 (外部評価) 名前の呼び方については利用者と家族の希望に合わせて対応している。長く勤務している職員が多く、共に暮らす家族として利用者を尊重した自然な声かけができています。特に入浴や排せつの介助時は羞恥心への配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者がしたい事、食べたい物などの意向を、日々の会話の中から引き出し、希望を実現できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日のスケジュールなどは無く、利用者が自分の意思やペースで行動できるよう、ゆったりとした自由な生活のリズムを維持している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 買い物に出掛け好みの服を選んで買ったり、自分で選ぶことが困難な方には若い頃の趣向をふまえて家族の方に選んでもらったりと、それぞれが個性にあった服装をしている。美容院に通う事が困難な利用者のため、定期的に美容師の方にホームに来てもらい、好みの髪型に整えてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各利用者の好みを取り入れた献立を職員みんなで考えている。食事を生活の楽しみの一つとして重視し、見た目や食べやすさにも気を配っている。可能な利用者には調理、後片付けも一緒にしてもらい、やりがいを感じてもらっている。 (外部評価) 利用者の好みに配慮された献立は見た目も美しく、美味しく食べやすく調理されている。ほとんどの利用者は介助なしで完食している。年末年始や節分、ひな祭りなど季節の行事に合わせた食事は利用者にとって何よりの楽しみであり、事業所での暮らしをより豊かなものにしていく。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食欲や体調、持病の関係などからそれぞれの利用者に適切な食事量を調整している。水分摂取が十分であるよう、全職員が気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 必要な人には介助をし、職員も一緒になって毎食後口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握し、さりげない声掛けや誘導により、気持ちよくトイレでの排泄ができるよう支援している。適切な誘導をすることで失禁や放尿がほとんどなくなった利用者もいる。	
			(外部評価) 紙パンツとパッドを使用している利用者もいるが、一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレでの排泄を支援している。夜間は居室でポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘になりにくい、野菜を多く使った献立を考えている。「牛乳を飲むとお通じが良くなる」といったような個々の利用者の希望があればそれに応じている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) おおまかな入浴予定はあるものの、それに捉われることはなく、それぞれの利用者の希望に応じた入浴支援をしている。入浴前は嫌がる利用者もいるが、職員の工夫や声掛けで入浴後は「とても気持ち良かった!」と満足されている。	
			(外部評価) 大きめの浴槽やシャワー浴の機材が整備され安全に入浴支援が行われている。脱衣場の横にはトイレと汚物用の流しがあり、利用者の羞恥心に配慮したケアを行えるよう環境整備もされている。入浴の苦手な利用者も声かけなどを工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昔から使っていた馴染みのある寝具やパジャマを使ってもらうことで、違和感無く休むことが出来ている。就寝時間の決まりは無く、利用者それぞれのリズムに合わせている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬時には複数の職員が確認のうえ、見守り・介助のもと服用してもらっている。各利用者のカルテに処方箋をはさんでおり、服薬時の注意事項や副作用などの情報を職員すべてが理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 歌、踊り、手芸、料理などそれぞれの特技を披露してもらう機会を作り、他の利用者や職員とそれを楽しむことでいきいきとした生活を送れるよう支援している。元気な利用者が職員と協力して身体の不自由な利用者の援助を自発的に行う事でやりがいを見出している場面もある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員が同行しての買い物やドライブ、カラオケなど希望に沿った外出の支援を行っている。可能な家族には外食や地域の行事に連れ出したりと、協力してもらっている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望や季節に合わせた外出を計画、実施している。弁当をもって花見に行ったり、カラオケや買物、外食などを楽しんでいる。家族と一緒に写真館で記念写真を撮る利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は、入所者本人や家族とよく話し合った上で、利用者本人の認知能力の程度に応じて、管理方法の取り決めをしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 時間帯や本人の状態などを考慮したうえで、制限なくできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は適切な明るさ、温度が常に保たれており、季節の花を活けたり飾り付けをしたりすることでホーム内に居ながらも季節感が感じられるよう配慮している。	
			(外部評価) 季節感が感じられる飾り付けがされ、心和む空間づくりがされている。玄関にはスリッパの滅菌庫が設置され、来訪者への配慮がされている。小上がりの和室は夜間寝室としても利用されている。食堂兼居間もソファなどが置かれゆっくと過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間には椅子の席、ソファー、足を伸ばせる畳コーナーが設置してあり、各利用者がその時の気分に応じて好きなように過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者それぞれが使い慣れた家具や持ち物を入れる事で違和感無く生活できている。仏壇を置いたり思い出の写真、記念品などをを自室に飾ることで安心感を深めている利用者も多い。	
			(外部評価) 各居室にはベッドと整理タンスが整備されており、家族に協力を得ながら衣替えを行なっている。思い出の写真や家族の位牌を置いている利用者もおおり、一人ひとりが落ち着けるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや非常出口、居室の表示など分かりやすくして、混乱を招くことがないように配慮している。	